

卒業生の北川聡子さんから本が届きました！！

先週の金曜日に、卒業生の北川聡子さんから『子育ての村が出来た！』（福村出版）という題の本が送られてきました。北川さんは2017年10月に遺愛の修養会の講師として、遺愛女子高校卒業生としては初めて来られた方です。

北川さんは遺愛女子高校を卒業した後、北星学園大学の社会福祉学部で学び、卒業と共に仲間4人で、1983年4月に札幌にある小さな教会に間借りして、無認可の通園施設「麦の子学園」を立ちあげました。就学前のお子さん（特に知的障害のある方）に対して発達支援、そして困難を抱えた家族の支援を行う施設でした。それから37年間、一緒に立ちあげた仲間3人は途中で別な道を進むために抜けるのですが、新しい多くの出会いに支えられながら北川さんは施設を発展させていきます。本にはその歩みが書かれています。現在、事業別に分けると、「子ども発達支援部門」「成人部門」「社会的養護部門」「地域支援部門」があり、本当に多くの人に関わっています。遺愛出身の4人の卒業生も職員として働いています。本に書かれていた麦の子のミッションとビジョンを紹介します。

ミッションー共に生きる

むぎのこは困り感のある人たちを救い、共に生きるために存在しています。生まれてくるとき、何一つ自分で選択できません。しかしみんなが、生まれてきてよかったと思える日々、そして、この世は生きるに値すると思える社会、すべての人が、リスペクトされ、敬意をはらわれる世界を創っていきます。

ビジョン

一人の子どもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要です。むぎのこは、困り感を感じている子ども・人・家族・働く人が出会う場であり、やさしさを通じて一人ひとりが本来持っている光が輝き、それによって生まれる新たな価値を世界に発信し、世界中の人々の幸せを追求します。

とても素晴らしいミッションであり、ビジョンです。「困り感」がKEY WORDになっており、身近で困っている人がいれば、寄り添って共に生きようとし、「生まれてきて良かったと思える日々、生きるに値する社会」を共に実現しようという志があります。

北川さんは、本の「おわりに」で、福祉の道を志したのは遺愛の修養会で、滋賀県の障がい者施設「止揚学園」の創立者福井達雨先生と出会ったからだと書いていました。福井先生の講演を通して、全身全霊で障害のある方に向かい合っている福井先生の姿に、一生仕事をするのであれば、障害のある人たちを支援する仕事をしたいと北川さんは思って、まさにそのように今日まで歩んでいます。今年の修養会は、福井達雨先生の後を継いだ息子さんの福井生（いくる）先生が来てくださいます。

2020年7月6日（月）

